

平成 24 年度研究成果情報

課題名: 大浦マガキ養殖の安定生産に向けて

[背景・ねらい]

本県太良町大浦地先ではマガキの垂下養殖が平成 13 年から行われているが、8~9月にかけて発生する大量斃死により生産は不安定となっており、有明海に適した垂下養殖技術の確立が望まれている。

今回、夏季から秋季にかけて潮間帯環境の有効性を把握するため、マガキの養殖試験を実施した。平成 24 年 2 月 21 日から平成 24 年 10 月 11 日まで牟田地先の潮間帯で育成し、その後沖出したもの(潮間帯区)と、同じく 5 月 15 日に沖出したもの(対照区)を比較した。

[成果]

(1) 平成 25 年 2 月 28 日の試験終了時の生残率は、潮間帯区では 37.8%と対照区の 5.7%に比べ高率であった(図1)。

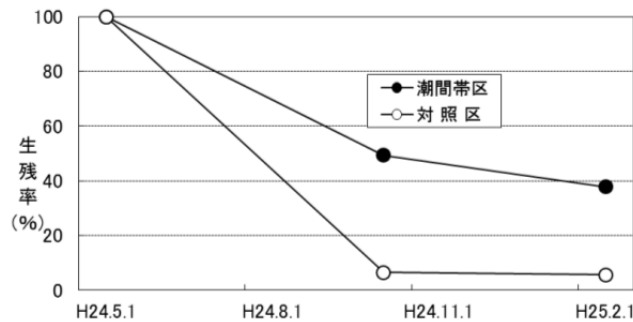


図1 マガキの生残率の推移

(2) 試験終了時の平均殻高と平均重量は、潮間帯区では 51mm、18.6gとなり、対照区では 87mm、58.2gと潮間帯区の成長は不良であった(図2、図3)。

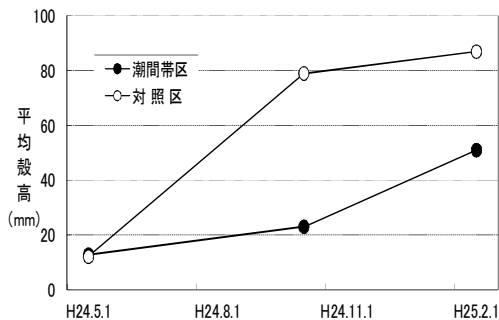


図2 マガキの平均殻高の推移

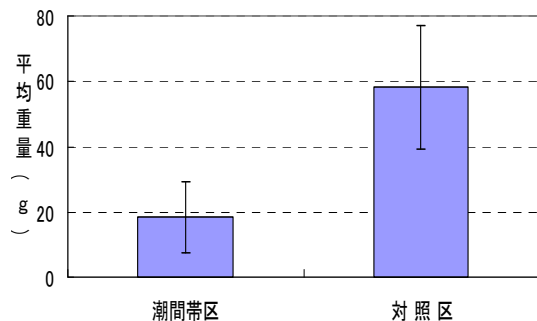


図3 試験終了時の平均重量

(3) 10 月まで潮間帯環境を利用すれば夏場の大量斃死を軽減できるが、成長が遅れ、出荷サイズの 40gに到達しないことが確認された。

[課題・問題点]

- ・ 潮間帯環境の利用期間等有効な利用方法を把握する必要がある。

[今後の対応]

- ・ 潮間帯環境を利用した2年貝養殖の可能性を検討する。

[その他]

研究期間:平成24年

研究担当者:普及担当 古川 泰久